

私たちは過去を超えます。  
常識を超えます。  
国境を超えます。



チーム環のロゴマークは、深い悲しみを乗り越えて、情熱をもって未来へと向かう、15の地域チームが団結する様子を表しています。

環

**TOHOKU RENAISSANCE  
FESTIVAL** 東北復興祭 in パリ 2014年8月開催!  
**in PARIS**  
**August, 2014**

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災で被災した東北地方の中学生・高校生約100名による〈チーム環〉です。私たちの多くは震災や津波、原発事故で家や地域を失い、家族や友だちと別れ、今日まで多くの苦しみと悲しみを経験してきました。

私たちは、2012年3月より、福島大学が中心となり文部科学省とOECDの協力によって生まれた「OECD 東北スクール」に結集し、地域や世界について多くのことを学び、たくさんの友だちとつながり、地域の復興のために奮闘してきました。

このたび、2014年8月30・31日に、パリのシャン・ド・マルス公園を中心に、国内はもとより、パリ市やパリ在住の多くの方々との協力のもと、東北の魅力の世界にアピールするイベント「東北復興祭」を開催することになりました。祭のテーマは「死と再生～未来へとつなぐ～」です。この祭で私たちの思いを伝えるとともに、未来を信じることのすばらしさをお伝えしたいと考えております。このイベントを成功させるためには、皆様方の多くのご協力が必要不可欠です。どうか私たちの〈環〉に加わってください。皆様方からご支援をいただきますことを心よりお願いいたします。

イベントテーマ

**死と再生**  
～未来へとつなぐ～

東日本大震災  
教育復興プロジェクト

**OECD**  
**東北スクール**



**OECD TOHOKU SCHOOL**

<http://www.oecd-tohoku-school.com>

## 「このままではいけない」という始まり

震災以来、福島は津波・放射能汚染・健康被害……様々な不安が私たちに襲いました。しかし今、私たちの生活は震災前と変わらない、穏やかな生活に戻ったように見えます。

しかし、心には傷跡が残ったままで、心のどこかにぽっかり穴が空いているような気持ちのまま、それでも静かに過ごせるのなら、それだけで十分というあきらめがあり、放射能汚染に不安を残したまま、中途半端な気持ちで、毎日を過ごしているような気がします。

そんな時、「OECD東北スクール」へ参加し、他の県の震災被害に遭った友達とたくさん出会うことができました。話を聞くだけで涙が止まらないような、私の想像以上の経験をした友達がたくさんいました。それでもみんながんばっていました。現実を受け入れ、乗り越えようとしていることは、とてもたくましいと思いました。

私たち、伊達市は、他の被災地とは違う、放射能汚染とたたかっています。先の見えない風評被害に過度の被害妄想まで加わって、畑仕事が生きがだったお年寄りの人たちまで、ひっそりとしてしまったような気がします。

しかし私たちは、これからますます重くのしかかるであろう風評被害とたたかっていかなければなりません。もう一度、野菜や果物、食べ物の豊富な福島県を取り戻さなければいけないのです。

私にとって「東北スクール」は、「このままではいけない」という始まりです。今まで不安そうなお父さんや大人の方たちを、ただ見ていただけだった私たちに、何ができるだろうか。この大好きな福島のために、何をしなければならぬのだろうか。この東北スクールに参加させていただき、たくさんの大人の方々の協力を得て、私たちに今できる最高のことを考えていきたいと思う。

「震災」という敵に押しつぶされないように。

(第1回集中スクールの感想から 佐藤優里奈さん)

## ■OECD東北スクールとは

2011年3月11日、日本の東北地方一帯を巨大地震が襲い、海から巨大津波が押し寄せ、沿岸部を中心に死者・行方不明者約2万人という甚大な被害をもたらしました。さらに翌日には東京電力第一原子力発電所が水素爆発を起こし、全世界に衝撃を与えました。

同年4月、OECD(経済協力開発機構)事務総長が来日し、東日本大震災からの復興に協力することを約束しました。そして、文部科学省、福島大学と協議を重ね、復興教育プロジェクト「OECD東北スクール」が生まれました。

OECD東北スクールは、震災に襲われた福島、宮城、岩手の中学生・高校生約100人が集まり、2年半にわたる様々な活動を経て、「2014年8月、パリで東北の魅力を世界にアピールするイベントをつくる」という、未来を取り戻すプロジェクトです。

プロジェクトを支えるのは、政府を中心としたハイレベル円卓会議、有識者からなるアドバイザーボード会議、地方行政機関、NPO、企業などの関係団体で、福島大学に設置された運営事務局がプロジェクトを進めます。OECD教育局は、諸外国の教育先進事例や復興事例をとり入れながら、復興支援教育の中身を構築していきます。

プロジェクトの目的は、復旧に留まらず「新しい東北・日本の未来」を考え、東北地方の経済活性化に必要な産業やイノベーションを生み出すための人材育成です。そのため、生徒たちが主体性を発揮し、地域の復興を考え、自らの考えを実行に移し、イノベーションを生み出す力を育むようさまざまな「仕掛け」をしています。例えば、生徒のリーダーシップ、企画力、創造力、建設的批判思考力、実行力、交渉力、協調性、国際性など。これらは、21世紀というグローバルな、多様性に富む、知識基盤型社会におけるOECDキーコンピテンシーと呼ばれています。

2年半にわたる被災地の生徒達の「未来探しの旅」が続いています。

## ■2014年までの大まかな流れ

OECD東北スクールは次のように開催されます。

- 集中スクール**……5回の集中ワークショップ(約1週間)を開催し、多彩な講師による体験活動や熟議を行います。参加者全員の全体会となり、参加者は、各地域や学校ごとにチームとして参加し、引率者も主要なメンバーとなります。
- 地域スクール**……各地域ごとに各地の状況に応じて、若者からの地域復興を企画・実行する地域スクールを行います。週末の活動や総合学習の一環として、また放課後の活動として月2回程度行われています。
- テーマ別活動**……パリでのイベントを成功させるために「シナリオ」「産官学連携」「コミュニケーション・PR」「セルフドキュメンタリー」の各活動を行います。地域をまたいでダイナミックに展開しています。
- 2014年イベント**……東北の復興を世界にアピールするプロジェクトの最終ゴールです。自分たちで内容を企画し、実施するための資金を調達したり、そのための広報活動を行ったり、自分たちの活動を記録したりと、様々な人々と協力しながら、ゴールをめざします。



プロジェクト統括責任者 三浦 浩喜 (福島大学教授)  
General Project Manager Hiroki Miura (Professor Fukushima Univ.)  
OECD シニア政策アナリスト 田熊 美保 (OECD パリ本部教育局)  
OECD Senior Policy Analyst Miho Taguma (OECD Paris Headquarters)

運営事務局 七島 貴幸  
〒960-1296 福島市金谷川1番地 福島大学内  
Tel/Fax: 024-503-3803 Email: tohokuschool@gmail.com

**OECD 東北スクールでは、運営資金確保のため皆様からのご寄付を受け付けております。**

ご寄付は福島大学の中に開設した OECD 東北スクール専用口座に振り込まれます。ご寄付は、①奨学寄付金の申し込み・相談 (TEL:024-548-8101 E-mail: ningen@adb.fukushima-u.ac.jp) → ②書類作成方法等の案内 → ③書類の送付 → ④寄付金の納入 → ⑤領収書の送付、のプロセスとなります。詳しくは、<http://gakujyutu.net.fukushima-u.ac.jp/category/cat-id15/> をご参照ください。